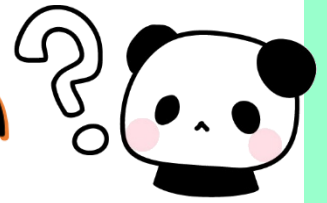


私って、精神保健福祉士なのかい



皆様には、日ごろから本協会の活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

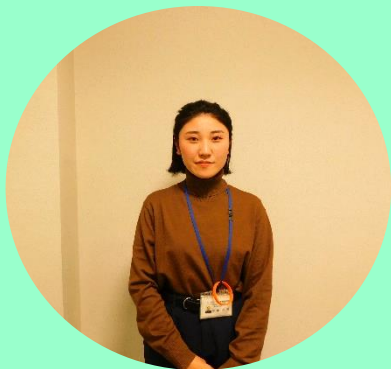
12月7日(土)、医療法人芙蓉会 芙蓉会病院内3階会議室にて精神保健福祉士としての経験概ね5年以下且つ35歳未満の新人・若手を対象とした研修会「私って、精神保健福祉士なのかい？」を開催し、7名の方に参加して頂きました。

社会情勢・社会構造の変化や課題の深刻化に伴い、社会施策も変化しており、精神保健福祉士に対する社会的役割も大きくなっています。その様な役割を担い就労する中で、「精神保健福祉士としての役割を担えているのか?」「行いたいことを業務として行えていない」「自分が働いている価値はどの程度あるのか?」等、様々な葛藤・苦悩・苦境を抱えていることが多く、就労意欲やモチベーションが低下することもあります。

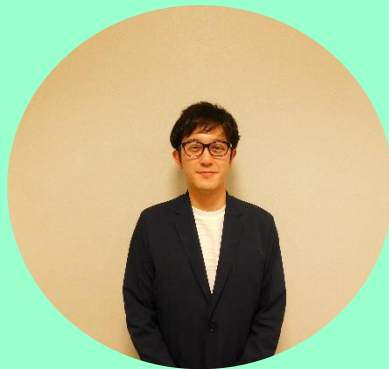
今回の研修では、医療機関、行政機関、地域福祉機関へ所属するパネリストの方々より、精神保健福祉士とし抱く葛藤や苦悩と、それに対してどの様に向き合ってきたか、或いはどの様に向き合っているかを、体験報告として発表して頂き、その体験や感情を参加者とも共有しながらパネルディスカッション・グループワークを展開して、精神保健福祉士としての在り方や今後の活動目標等について思索・協議が行われていました。



今回のパネリスト



医療法人芙蓉会 芙蓉会病院
加藤 友希さん



医療法人芙蓉会 自立訓練事業所 SUN
三橋 詢也さん



青森市福祉部 障がい者支援課
青山 真弓さん

パネリストの方々からは、要支援者やクライアントとの関係性に関すること、同職種或いは他職種との職業観・倫理観の違いに関すること、職務や業務の内容や量に関すること等、実際の経験から生じている苦悩や葛藤が伝えられ、また、それに対しての向き合い方や対処方法等についても発表がなされていました。クライアントとの関係性については、[疲弊・疲労]という感覚ではなく、[悩み]として感じている比率が高い様で、職場環境や対人関係に対しても疲弊・疲労を感じる部分が多くある様です。専門職として共感性の高い内容で、今回の様な職場外手段への参加やストレス発散の機会、職場内でアドバイスを受ける環境の重要性について再認識できました。



パネリストの体験・感情に触れ、ディスカッションやグループワークを通じて、[無力感]等といった、其々が抱く葛藤・ジレンマを、平等な立場で多角的な視点から振り返る機会となっていた様です。その中で、「自分を大切にできない考え方を修正すること」「抱いている思考や感情の分析を行うこと」「悪循環を抜け出すための行動」等についても話し合いが行われていました。

R1.7.20に開催した「しゃべり場」の内容とも連動させながら、ディタッチト・マインドフルネスを促し、専門職として価値を高められる理念・信条を醸成する、[自律の手伝い][自己点検の手伝い]が行えたのではないかと感じています。育成委員会Bでは、今後も新人・若手の方々ができるような研修等の活動を行いたいと思います。是非、ご参加ください。

研修部門 育成委員会B 委員一同



※見学・会場の提供に協力頂きました、医療法人芙蓉会様、本当に有難うございました。